

バナナとしての価値観

(原文は英語)

キヨー・リー (15 歳)

カナダ・オンタリオ州

バナナ。外は黄色くて中は白い。「バナナ」という言葉は「東洋文化」に従わず、西洋社会に同化しているとされるアジア人やアジア系アメリカ人を表すのに使われます。この「バナナ」というあだ名は、固定観念や心理的差別、人種的偏見、アジア人に対する憎悪を表す言葉として、子ども時代の私に付いて回り、私の個人的・社会的・文化的価値観に大きな影響を与えてきました。

私は幼い頃に韓国からカナダに移住し、北米文化にすぐに適応しました。その結果、私の思春期の前半と家庭環境は主にアジア文化の影響を受けましたが、私の青春時代の大半は西洋的価値観によって形作られました。これはたびたび原則の矛盾を生みました。例えば、ほとんどの西洋社会で個人主義が拡大し続けるのとは対照的に、東洋社会の多くが集団主義であり、それは私の人間関係に対する認識を混乱させました。私の仕事や社会問題に対する考え方、意見から昼食や身に付けるものまで、あらゆるものに対する私の価値観は、いつもさまざまな要素で作られていました。

しかし、移民として育った私は、常に西洋社会に完全に同化しようと努力してきました。同化は社会に受容され、帰属することを意味し、その一方で抵抗は異国のものと見られ、冷笑され、人種差別を受けます。西洋メディアは、白人の登場人物を好意的に描くと同時に『アイアンマン』のマンダリンや『すてきな片想い』のロン・ダク・ドンに見られる黄禍論のように、アジア人を差別的に描きます。これを見るたびに、そして「アジア人にはイケてるね！」といった皮肉なほめ言葉を受けるたびに、私の中で自分の文化に対する印象は悪くなる一方でした。さらに、欧米の帝国主義や文化植民地主義の強い影響を受けている韓国の伝統も、同化を促すプレッシャーに拍車をかけていました。

いろいろな方法を通じて、私は「内も外も白ければ白い方が良い」と言われ続けてきました。「自分の典型的なアジア人である部分は全て良くないものだ」という原則が身に付いてしまった私は、自分の中の韓国的な哲学を完全に排除しようとしました。個人主義を強化するためにわざと家族と距離を置いたり、儒教の伝統である学習に反発するためにわざと成績を下げたりしたこともありました。

「バナナ」である私は、いつもアジア人過ぎるあるいは白人過ぎると言われ、常にアジア人としても白人としても不十分でした。まるで完璧に分類された果物のグループのどこからも除外された1粒のベリーです。私は自分の母国を故郷として受け入れず、アメリカは私をその一員として認めてくれませんでした。

しかし、地理の授業でさまざまなグループの若者たちが体験した文化的葛藤について、彼らにイン

タブーをする映像を見て以来、私の考え方は全く変わりました。この複雑な社会的分断は多くの人に共通する経験だと知ったのです。私は独りではありませんでした。若い人たちが自分の多文化性を受け入れる中での葛藤を語るのを聞き、私の中で「自分は何者なんだろう」「私の価値観は何だろう」という疑問が湧いてきました。

これまで私は、アジア人であることと白人であることは相いれないと思いつけてきました。私が白人になりたいと思い、この国になじんでアメリカを自分の故郷と呼びたいのであれば、私の中のアジア人としての価値観を捨てなくてははいけないと思っていたのです。でも今は、複数の文化の雑多な組み合わせでもいいのだと知りました。私は現在、より正確に自分が誰であるかを表現できるよう、そして、人間関係や経験、伝統、独自性など自分の全てを包含するために、自分の価値観を構築し直している最中です。

私の心にあるものは、平等、共感、勇気、謙虚さ、そして愛です。私はアジア系アメリカ人のための正義、先住民との和解、人種差別反対、文化的多様性、芸術、教育、人間関係の構築を信条としています。私の価値観は、アジア系移民、2SLGBTQ+の女性、友人、娘、学生、一人の人間、独自性、そして「バナナ」としての経験から得た色とりどりの断片でできた、唯一無二のモザイクです。

これらの価値観は、私自身と私の周りの世界を定義しています。現在、私は自分の自覚していない差別を認め、自分自身が学ぶと共に周りの人にも伝え、さまざまな組織や運動を通じて、自分の住む地域や世界に向けてアジア系アメリカ人の権利を訴えることに取り組んでいます。

私は今、自分自身にとって「アジア系アメリカ人」が何を意味するのかを定義している最中です。なぜなら、アジア人であることは画一的な体験ではなく、また、生物学的あるいは地理的な状態を定義するものでは決してないからです。それは、幅の広い概念であり、私たち一人一人がそれぞれの形に作っていくべきものなのです。私は黄色や白色という単純な色になり下がるつもりはありません。私の人生は、たくさんの虹でできた、もっと複雑な物語だからです。

参考文献

ケイトリン・ヨシコ・カンディル (Kandil, Caitlin Yoshiko) 「『アジア系アメリカ人』という言葉ができて50年たった今、権利活動家は、この言葉が『これまでになく不可欠になっている』と語る

(After 50 years of 'Asian American,' advocates say the term is 'more essential than ever.)」NBCニュース (2018年5月31日)

<https://www.nbcnews.com/news/asian-america/after-50-years-asian-american-advocatessay-term-more-essential-n875601> (参照日：2022年6月13日)

リリアン・ミン (Min, Lilian) 著「バナナの罠：アジア系アメリカ人と『船で届いたばかり』」

(The Banana Trap. Asian-Americana and “Fresh Off the…”) 『Medium』掲載『THOSE PEOPLE』オンライン誌 (2015年2月23日)

<https://medium.com/thsppl/the-banana-trap-48d25455429e> (参照日：2022年6月13日)